

■日頃から県労福協の活動にご支援・ご協力いただきありがとうございます。

5月20日第11回（第56回）通常総会は、3年ぶりに集合して開催することができました。この2年新型コロナウイルス感染症の拡大に様々な活動が翻弄され続けましたが、少しずつマスク着用の考え方も変わってきています。ウィズコロナの社会活動となってくると思われます。

2020年1月発生した新型コロナウイルスによりかって経験したこともないような世の中となり、日々の営みすら変えてしまいました。ある高校の卒業式で、先生が卒業生に「この2年君たちの目だけしか見れなかった。マスク外した顔は、昼食の時間でしかなかった」と言われたそうです。何とも切ないものだったか推し量ることができます。これから夏にかけて、熱中症対策で、街中ではマスクをはめてない人も増えてくるでしょうが、日本人は「目は口ほどにものを言う」中で抵抗なくはめてきましたが、しっかり健康管理をしながらこれからの梅雨と猛暑対策を講じて行きましょう。（因みに外国の人は、口元で表情を読み取ることからマスク着用には抵抗があるとのことです。）

さて、第8号のひと言コーナーは事業団体から 濱田幹事さん（秋津レークタウンクリニック事務局長）から寄稿いただきました。コロナ禍でエッセンシャルワーカーの方々は大変なご苦労をされています。そのような中、クリニックにおいて先頭に立って頑張っておられます。

まだまだ新型コロナウイルス感染症は収束（終息）する気配はありませんが、厳しい環境の中頑張っておられる皆さんにしっかりエールを送りたいと思います。

多忙な中寄稿いただきましたので、「秋津レークタウンクリニック」について知っていただければと思います。

## 【1】濱田幹事（秋津レークタウンクリニック 熊本労安会事務局長）からひと言

熊本県労働者福祉協議会を支えていただいている労働組合・事業体の皆さま、お疲れ様です。事業体の一つであります、秋津レークタウンクリニックの濱田です。今回、労福協「ふれあい通信」ひと言欄への依頼がありましたので、秋津レークタウンクリニックについて紹介させていただきます。

秋津レークタウンクリニックは、1990年4月に熊本県労働安全衛生センター秋津レークタウンクリニックとして開院しました。前理事長原田正純先生、現理事長木村孝文先生を中心に、社会に奉仕できるユニークな診療所として開院しました。以来、**職業病、環境・公害病、地域・福祉医療を3本柱に診療を行っています。**クリニック開設にあたって、多くの労働組合、団体、志を共にする仲間の方に物資両面で協力していただきました。**支えていただいていることに感謝をしながら、医療を通じて皆さんと私たちスタッフが、信頼の中に存在するクリニックでありたい**と思っています。法人化して医療法人社団熊本労安会となった今でも、**初心を忘れることなく共に歩み続けていきたい**と思っています。

最後に大切にしているクリニックの理念を伝えて終わりたいと思います。

#### 1. 患者・利用者主体の医療

医療・介護の主人公は医療者ではなく患者・利用者である。患者・利用者が主体となって関わる医療・介護を、私たちは専門家としてサポートする。

#### 2. 全人的な医療・介護を目指す

私たちは病気や患部にのみとらわれることなく、患者・利用者を一人の人間全体として捉える。さらに患者・利用者の生活環境、労働環境や家庭、地域にも目を配る。

#### 3. 説明責任

医療・介護において患者・利用者と医療者は対等の関係である。深い信頼とお互いの立場を尊重した対話によって医療・介護を実践する。十分な説明と納得にもとづくインフォームドコンセントを徹底し説明責任を果たす。

#### 4. 医療情報の開示と個人情報保護

医療・介護における密室性を排し透明性を高める。カルテをはじめとする情報を、当該の患者・利用者に可能な限り開示し共有する。一方、個人情報保護法にもとづく個人情報の保護にも万全を期す。

#### 5. 予防の重視

私たちは、病気になってからだを診る(看る)のではなく、病気にならない予防活動を重視する。食事・運動・喫煙・飲酒などのライフスタイルの変容を支援する。

#### 6. 継続的な疾病管理

私たちは、患者・利用者の急性期・慢性期に最適の治療・支援を院内で行うとともに、その治療・支援を院外にまで広め、訪問看護・介護、在宅ホスピスを含めたターミナルまで一貫して継続した管理を行う。

#### 7. 自己研鑽・生涯研修

私たちは、最善の医療・介護を行うため、常に新しい知識や技術の習得に励みレベルの向上に努める。

#### 8. 医療機関・介護関連施設との連携

患者や利用者が最も適切な医療・介護を受けられるよう、地域の診療所や基幹病院、介護関連施設との交流と連携を強め、紹介受診や入院、紹介利用を円滑にする。

#### 9. 社会保障の充実

わが国の国民皆保険、フリーアクセスを堅持し、収入の多少に関わらず総ての国民が、いつでも、どこでも安心して最適の医療・介護が受けられるような医療制度の実現に努力する。

#### 10. 環境、平和と人権

社会保障の充実には、環境、平和が護られ人権が尊重されることが不可欠である。環境保護、平和、人権を護る活動と連携する。

\*\*\*\*\*

## 【2】中央労福協活動コーナー

■「2022年度 全国研究集会 in 静岡」開催

6月2日、『“TSUNAGARI “世代を超えて”』をテーマにハイブリッド開催（YouTube Live 生配信）されました。コロナ禍をきっかけに時代や社会は急速に変化しました。私たちはこのかつてない変化の上で、よりよい未来の創造にむけて、「世代を超えて」取り組みを広げていくひつようがあります。2030年の国連SDGsの達成、労福協の2030年ビジョンの実現に向け、新しいつながりへアプローチする第1歩として、現代の若者たちの持つ感性、価値観、考え方や生き方などにふれ、「同じ社会の担い手として一緒にできることはないか」と模索する。若者たちを知り、若者たちとつながり、社会的課題の解決や地域おこしへのヒントを考察する時間となった。

### 【3】南部労福協活動コーナー

■2022年度労働者福祉南部ブロック協議会第1回事務局会議及び第2回幹事会

日時 2022年6月20日（月） 13時30分～

場所 大分県労働福祉会館 ソレイユ

協議事項

- (1) リーダー養成講座・研究集会の開催方法・内容等の変更判断について
- (2) 役員視察研修について

### 【4】県労福協活動コーナー

■2022年6月28日（火）熊本県労働者福祉会館第70回評議員会

第1回評議員会

■2022年7月6日（水）県労福協第1回幹事会 14時00分～県労館大会議室

■2022年度7月30日（土）県労福協第1回地区労福協代表者会議

\*\*\*\*\*

### 【5】雑学（トリビア）コーナー

■**ボーナスの意味・由来について**・・・「ボーナス（bonus）」とは、労働者に対して定期的に支払われる給与とは別に支払われる、特別な給与のことである。「賞与（しょうよ）」とも呼ぶ。「ボーナス（bonus）」という言葉は英語に由来する外来語で、もともとはラテン語で「良い」を意味する「ボヌス（bonus）」を語源とする。

ラテン語の「ボヌス（bonus）」は様々な言葉の語源となっており、例えば、フランス語で「良い」を意味する「ボン（bon）」や、「良い日」や「こんにちは」を意味する「ボンジュール（bonjour）」、イタリア語で「良い」や「美味しい」を意味する「ボノ（buono）」などがある。

「ボーナス（bonus）」は日本では決まった時期に支給される場合が多いが、英語では「良い成果を上げた時の特別報酬」という意味合いが強く、「思いがけない贈り物」や「おまけ」という意味もある。

ちなみに、公務員は法律や条例でボーナスの支給日が決められており、夏は6月30日、冬は12月10日に支給される場合が多い。民間の企業は支給日がそれぞれ異なるが、これら

公務員の支給日に近い日程で支給される場合が多い。

また、明治以降において日本で初めてボーナスを支給したのは三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎（いわさき やたろう、1835～1885年）だとされる。海運会社として急成長していた三菱会社は、大胆なリストラと徹底的な経費削減を実施し、日本における航路を海外の企業から守りきった。そして、1876年（明治9年）に初めて社員におよそ給料1ヵ月分のボーナスを支給した。関連する記念日として、ボーナスが支給される予定の1968年（昭和43年）12月10日に事件が起きたことに由来して、12月10日は「[三億円事件の日](#)」となっている。

出典：雑学ネタ帳

\*\*\*\*\*

## 【6】福祉事業団体の活動

以下のURLからご覧ください。

(1) 九州労働金庫熊本県本部

<https://kyusyu-rokin.com>

(2) こくみん共済coop 熊本推進本部

<https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/kumamoto.html>

(3) ユニオントラベル熊本

<http://unitora.com/>

◇お取り寄せグルメの取り扱いを始めています。是非ご覧ください。

[お取り寄せグルメ-ユニオントラベル熊本 \(unitora.com\)](#)

(4) 秋津レークタウンクリニック

<https://akitsu-laketown.jimdofree.com/>

(5) ライフサポートセンターくまもと

<http://blog.rofuku.net/kumamoto-lsc/>

(6) 熊本県労働者福祉会館

[\(http://www.roukan.org/\)](http://www.roukan.org/)

\*\*\*\*\*

## 【7】事務局からひと言

岸田首相の看板政策「**新しい資本主義**」の計画案が示されました。格差是正と分配重視を主眼においたものと期待していましたが、色あせてしまったとしか言えません。当初富裕層を対象としたものと考えられた、株式売却益などの金融所得への課税強化は、反発を受け頓挫。「令和版所得倍増」も家計に貯蓄から投資への移行を促す「資産所得倍増プラン」になってしまった。15人の有識者を集めての実現会議もまとまりがないと・・・さらには、アベノミクスの「三本の矢の枠組みを堅持」となり、影響力のある者の意向が反映されたものであり、限られた財源の中で、どう優先順位が付けられるのか。防衛費、脱炭素、子育て支援等歳出拡大の中、財政健全化は揺らぎに揺らいでいるとしか言えない。これこそ、将来の日本を担う世代に大きな負の遺産を背負わせることになるのではないかと。

また、政府は最低賃金の引き上げについて、2025年度には全国平均で時給1,000円以上をめざす目標を「新しい資本主義の実行計画」の行程表に盛り込むとの報道があった。「人への投資」の柱の一つと考えられている。労使の審議会での議論で目安を示す訳だが、今後の推移をしっかりと注視したい。

■前号で「18歳成人」について記載したが、たばこは20歳からということについて、「知らないとした人が3割」という記事が熊日に掲載されていた。低年齢で喫煙をすると健康リスクが高くなることの認識も低かったそうである。喫煙者にとっては耳の痛い話である。

また、20歳になったら吸ってみたいと思った者のうち52%が家族に喫煙者がいて身近だったからとのこと。健康リスクがあることを分かっているながら、やめれない自分に腹立たしい思いをしている方もいらっしゃるのでは・・・一念発起でさあ一明日から禁煙だ!! (因みにひと箱580円ひと月で約18,000円。この支出は老後には堪える。禁煙すればその間ストレスが溜まりそうだと思う人、もうどここのこそうと思う人、禁煙して健康をとる人。人それぞれかもしれないが、若い者の喫煙はやはり好ましくないとする人が大宗を占めるだろう。)

■進学率について・・・厚労省の調査によると20年3月の全世帯の進学率は73.4%、市民団体が厚労省の資料を分析した結果、21年3月の生活保護世帯の進学率は39.9%にとどまっていることが分かった。大学や専門学校に通う学生は原則、生活保護世帯の受給対象から外れることが進学を妨げる一任になっていると指摘されている。進学率が最も高かったのが、新潟県の49.2%、最も低かったのが、富山の16.7%となっている。因みに熊本県は40.3%。学校の少ない地方から中央等へ進学するには、金銭的負担が大きく、ここにも許されない格差が生じている。

このような現実がある中、5月25日熊本地裁が生活保護費の引き下げを取り消す判決を言い渡した。連合熊本弁護団の一人阿部広美弁護士が「一步踏み込んだ判断が出された」と評価をされている。控訴されることなく、判決が確定することを願いたい。

「トリクルダウン」と言われて久しいが、トリクルダウンとは「富裕者がさらに富裕になると、経済活動が活発化することで低所得の貧困者にも富が浸透し、利益が再分配される」という経済理論であるが、「富めるものはしたたり落ちるものもわが物のする」としかいえない娑婆のような・・・空しい格差社会といえるのでは。

5月27日開催した2022年度熊本県自然災害遺児救援会支援 県労福協・事業団体  
チャリティゴルフコンペのご支援ご協力に感謝申し上げます。カンパ金 112,000 円  
につきまして熊本県自然災害遺児救援会に寄付をさせていただきました。

今こそ!

労福協の力を

「持続可能な社会をめざして」「誰ひとり取り残さない社会をめざして」そのような思いでふれあい通信を継続していくことができれば・・・

ご意見、ご要望をお聞かせください。

一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会

〒862-0976

熊本県熊本市中央区九品寺 1 丁目 17-9

TEL 096-375-6029 FAX 096-375-6030

E-mail [rofuku@lime.ocn.ne.jp](mailto:rofuku@lime.ocn.ne.jp)